

交流展示会「北陸4県の海」展 巡回用展示資料

館名：新潟 県立図書館

項	書名	著者	出版者	出版年	キャプションの文章(100字程度)
1	海洋高校生たちのまちおこし コンブとサカナで地方創生	渡邊憲一／著	成山堂書店	2017.6	豊かな自然と海に恵まれた糸魚川市にある、新潟県立海洋高等学校。本書は、同校の生徒たちが地元自治体や企業の協力を得ながら、地域活性化に取り組む様子を生き活きと描いています。
2	図説新潟開港一五〇年史	芳井研一／監修	新潟市(文化スポーツ部歴史文化課)	2018.11	2019年に、新潟は開港150周年を迎えました。本書はこれを記念して刊行されたもので、開港以前の湊町新潟の様子や、開港から現在にいたるまでの新潟港の歴史を知ることができます。
3	赤い蠟燭と人魚	小川未明／作 いわさきちひろ／画	童心社	1975.6	『赤いろうそくと人魚』は、上越市出身の児童文学作家・小川未明の代表作です。日本海の遠い鳴音に耳を傾けながら作ったといわれる未明の物語に、これが遺作となったいわさきちひろの絵が添えられています。
4	わたしたちのクジラ学校	井上こみち／文 柿崎町立上下浜小学校4年生(昭和63年度)／絵	文溪堂	1995.12	上越市立(旧中頸城郡柿崎町立)上下浜小学校に残る、村の浜辺に打ち上げられた巨大クジラを解体し、校舎を再建できたという言い伝えによって書かれています。生徒たちの制作した版画は、迫力十分です。
5	新潟県の海辺の植物	酒井昭治／著	北都	1987.7	新潟県内の海岸で観察した植物の記録を、豊富なカラー写真とともに収録しています。現在、海浜植物は海岸浸食等の要因によって危機にさらされており、海岸の環境保全を考える上でも貴重な資料です。

交流展示会「北陸4県の海」展 巡回用展示資料

館名： 富山県立図書館

項番	書名	著者	出版者	出版年	キャプションの文章(100字程度)
1	蜃気楼 魚津の自然シリーズ2	佐藤真樹／著	特別天然記念物魚津埋没林博物館	2023	富山湾では、主に4月～5月にかけて蜃気楼が発生し、特に魚津市では江戸時代から記録が見られる。本書では、蜃気楼の歴史や仕組みを詳細に知ることができる。蜃気楼を一目見たいという方は、是非一読して魚津市へお越しください。
2	富山湾 蜃気楼の海、竜巻の浜、豊漁の港	竹内敏信／監修、濱野敏男／著	(株)出版芸術社	2005	海はそこで生きる人それぞれに違った顔を見せる。幻を見せる神秘の海であり、寒風吹きすさぶ荒涼の海であり、生きる糧を与えてくれる生命の海だ。一枚一枚の写真をとおして、自然と共に生きることを考えてみたい。
3	富山湾のシロエビ とやまブランド物語 VOL.6	富山県観光・地域振興局地域振興課／編	富山県観光・地域振興局地域振興課	2017	「富山湾の宝石」シロエビは、富山湾以外でも水揚げされる。しかし、漁業として成り立つほどの漁獲量は、「あいがめ」と呼ばれる独特な海底谷をもつ富山湾だけ。刺身、かき揚げ、鮓、ラーメン。富山でシロエビ料理と海上観光はいかがですか。
4	「帆船海王丸」物語 富山に永住した”海の貴婦人”	「帆船海王丸」物語編集委員会／編	(公財)伏木富山港・海王丸財団	2019	”海の貴婦人”海王丸は、商船学校の大型練習帆船として建造された。1万人を超える海の若人を育て、今は射水市の海王丸パークで美しい姿を誇っている。誕生から富山県への誘致、そして現在まで。帆船海王丸の歴史がわかる一冊。
5	海をみつめた縄文人ー放生津潟とヒスイ海岸ー	大阪府立弥生文化博物館／編	大阪府立弥生文化博物館	2015	富山県では、縄文前期より貝塚が形成され、縄文人の暮らしの営みがあった。貝塚からは食べかすのほか、人骨や石鏃、ヒスイの装飾品などが出土している。出土品を眺めながら、遠い時代に思いを馳せてみるのはいかがだろうか。

交流展示会「北陸4県の海」展 巡回用展示資料

館名:石川県立図書館

項番	書名	著者	出版者	出版年	キャプションの文章(100字程度)
1	銭屋五兵衛と北前船の時代	木越隆三	北国新聞社	2001	加賀藩藩政期において最も著名で数々の伝記や小説で取り上げられた銭屋五兵衛。銭五を超える北前船の商人が多数いるなか、彼はなぜ後世において抜群の存在感を得ることとなったのか。その真相に迫る人物伝。
2	イカのほん 修正版 能登の里海 海のいきものガイドブック	鈴木/信雄 // 監修	能登里海教育研究所	2021.3	日本三大イカ釣り漁港の一つである能登町小木港。小木のイカ釣り漁業の歴史や漁法、船の構造からイカの生態や料理まで多岐にわたって記述されたまるごと「イカの本」。イカの一尾冷凍保存法の誕生秘話などのコラムもあり。
3	波音 (風景写真BOOKS Artist Selection)	須釜/聡 // 著	風景写真出版	2011.3	能登半島の岩礁、冬の荒々しい能登の海、どこか懐かしく切ない夕暮れの海など海岸線46か所の写真集です。巻末に撮影データ・撮影ポイント(場所)の情報があるので、訪れる際の参考にもなります。
4	鳴り砂ノート 鳴り砂が奏でるロマンと魅力	川村國夫/著 真柄建設株式会社技術研究所/著	北国新聞社	2004年	全国の鳴り砂海岸で地形、地質、代表的な鳴り砂の粒子や発音の特性を調査研究した資料です。鳴り砂に関する実験や調査方法など書かれており、自由研究や課外活動などのヒントにもなります。
5	北陸の海辺自転車紀行 北前船の記憶を求めて	藤井/満 // 著	あっぷる出版社	2016.6	北陸の海辺を自転車で巡った記録です。第1部は輪島から富山へ、第2部は輪島から福井へ、巡った地で著者は地元の方とふれあい、地域の食を堪能します。北陸の魅力に気づかされる1冊。

交流展示会「北陸4県の海」展 巡回用展示資料

館名: 福井 県立図書館

項番	書名	著者	出版者	出版年	キャプションの文章(100字程度)
1	越前ガニいまむかし「大蟹」と「ずわい」	岡田健彦 // 著	岡田健彦	2021	越前ガニは、冬の味覚の王者のひとつとして人気が高い。この蟹は、福井県でいつの頃から、記録として記されているのか、またどのような漁法で漁獲されたのか、古文書からひもといた一冊。
2	さくらいろのごちそう 御食国ストーリー「都への贈答食文化」	小浜市文化交流課 // 企画・監修	小浜市	2023	時の天皇やお殿様は言うに及ばず、誰もがその味の虜となった“さくらいろのごちそう”「小鯛ささ漬」。京都の人が求め続けた新鮮味と保存性を、小浜の魚屋が実現したこだわりのエピソード集。
3	へしこ考 魚の糠漬け	山本巖 // [著] 山本律彦 // [著]	山本食品研究所	2005	「へしこ」とは魚の糠漬けのことをいう。高塩分ゆえひと頃は敬遠されたが、発酵食品の見直しにより生産は漸増している。「へしこ」の、加工圏、語源、製法、食べ方から成分や品質に至るまで、多角的にまとめた一冊。
4	さばの缶づめ、宇宙へいく 鯖街道を宇宙へつなげた高校生たち	小坂康之 // 著 林公代 // 著	イースト・プレス	2022	さばの缶づめが宇宙食として採用されるには、実に様々なハードルが待ち構えていた。福井県立若狭高等学校の名物先生と生徒たちの14年にわたる道のりを描いたノンフィクション。
5	恐怖の海 東尋坊	西村京太郎 // 著	文藝春秋	1995	サスペンスドラマで舞台となることの多い福井の誇る景勝地東尋坊。トラベルミステリー作家として知られる著者の表題作ほか四篇を収録。今回も十津川警部と仲間の刑事たちが難事件に挑む。